

試掘・分布調査

岡島遺跡

岡島遺跡は、西尾市岡島町・江原町に所在する、弥生時代を中心とする集落である。遺跡の所在する地点は、矢作古川左岸の自然堤防上で、現標高は、4 m程度である。

調査方法は、予定地内10ヶ所にトレンチを設定し、遺構の範囲・密度などを調査するため、分層発掘及び、断面観察を主目的とした。トレンチは、2.5m×20mを基本形とし、国道予定地内と、県道予定地内に、それぞれ5ヶ所ずつ、計500m²について設定した。

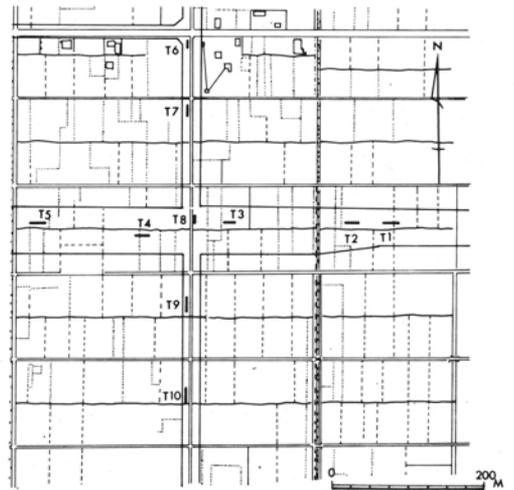
その結果、T.6・7・3・2地点の、標高3.7mにおいて、弥生時代後期の遺構面を、同3.5mでは、弥生時代中期の遺構面を検出した。また、T.1・8においては、旧河道を検出している。昭和23年に撮影された航空写真には、複雑にからみ合う、旧河道の軌跡を読みとることができるが、こうした状況は、岡島遺跡の環境を考える上で、示唆的である。

なお、T.5地点では、歴史時代の遺物を確認することができた。ここでは、遺構が検出されず、採集した土器にも、若干のローリング痕が認められはするが、時期的なまとまりが見られるため、当該期の遺跡が、さらに西方に存在する可能性が考えられる。

(池本正明)



岡島遺跡位置 1:50000



トレンチ位置図



T.3 全景 (東より)

春日井地区

環状2号線用地内の地藏川と庄内川に挟まれた地域においては条里制遺構の存否及びその範囲確認を主目的として、昭和61年4月～5月に12ヶ所のトレンチを設定し延べ500m²の試掘調査を実施した。

松河戸条里遺跡 (T.T.2～T.T.12) T.T.2、4、8、9、12において畦畔を確認。山茶碗等の出土遺物から中世を中心とする条里制遺構と考えられるが、T.T.2の在り方から下層に古代条里制遺構が遺存する可能性もある。

町田遺跡 (T.T.1) 多量の弥生土器片が出土し、堅穴住居跡も3棟検出した。弥生時代末期の集落遺跡と考えられる。

十二飛遺跡 (T.T.5、6) 中世の遺構面を確認。さらにT.T.6では居住域を想定できる。

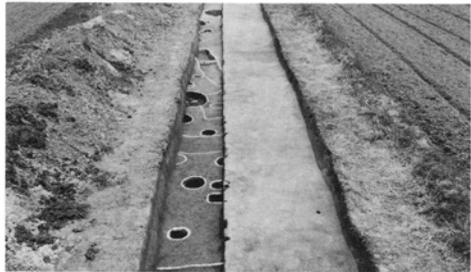
安賀遺跡 (T.T.10、11) 中世の遺構面を確認。T.T.11では包含層が残存し、井戸・柱穴溝を検出。中世の居住域と考えられる。

河戸遺跡 (T.T.12) 畦畔下に弥生時代の溝状遺構を検出。周辺に当該期の集落遺跡を想定できる。

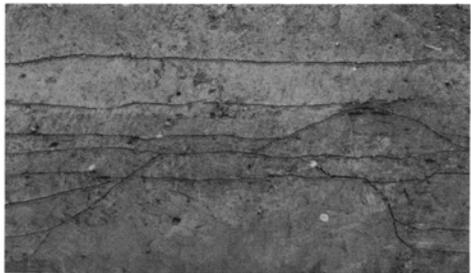
(松原隆治)



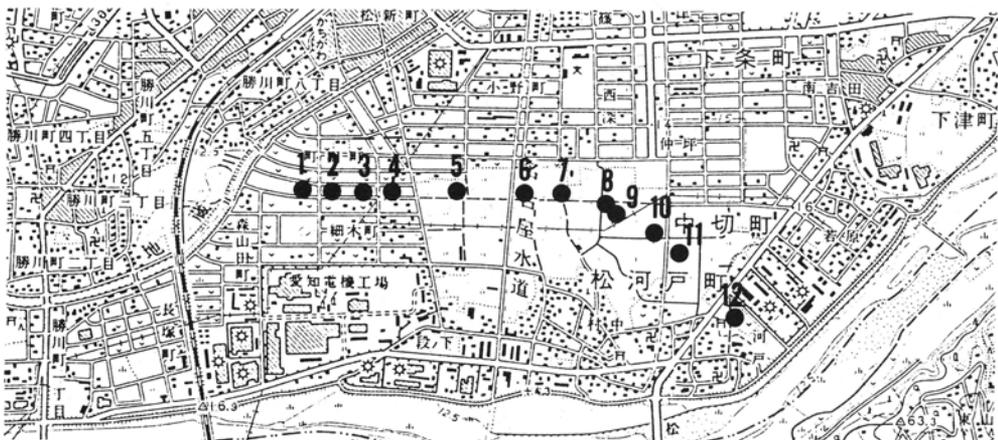
T.T.1 (西方より)



T.T.11 (西方より)



T.T.2南壁セクション



春日井地区試掘地点 1:25000

試掘・分布踏査成果一覧表

遺跡(地区)名	所在地	調査方法	成果
町田・松河戸地区 (名古屋環状2号線)	春日井市勝川町・ 町田町・松河戸町 地内	調査区域内に12カ所、のべ 500m ² の試掘坑を設定	「町田遺跡」、「松河戸条里遺跡」 などの存在を確認。「調査の概 要」参照
包 里 地 区 ()	名古屋市中区富田 町大字包里地内	調査区域内に6カ所、のべ 420m ² の試掘坑を設定	弥生～中世にかけて、若干の遺 物の散布がみられたものの、遺 跡の存在は認められない。
猪子石原地区 ()	名古屋市名東区猪高 町猪子石原地内	調査区域内に7カ所、のべ 70m ² の試掘坑を設定	試掘地点は全て後世の削平を受 けており、調査区域内に遺跡の 存在は認められない。
池 下 地 区 ()	名古屋市守山区 大字小幡地内	調査区域内に7カ所、のべ 70m ² の試掘坑を設定	池下古墳から池下南古墳にかけ て、古墳群及びその付属施設の 存在を推定。
牧野池地区 ()	名古屋市名東区 猪高町地内	調査区域内を実地踏査	古代の古窯跡3基以上の存在を 確認。
守 山 地 区 ()	名古屋市守山区 松坂町地内	調査区域内を実地踏査	集落遺跡の存在は認められない。
岡 島 遺 跡 (国道23号線バイパス)	西尾市岡島町・江原 町地内	調査区域内に5カ所、のべ 250m ² の試掘坑を設定	「岡島遺跡」の範囲を確認。 「調査の概要」参照
岡 島 遺 跡 (県道蒲郡・碧南線)	西尾市岡島町地内	調査区域内に5カ所、のべ 250m ² の試掘坑を設定	「岡島遺跡」の範囲を確認。 「調査の概要」参照
清洲城下町遺跡 (県道新川清洲線)	西春日井郡清洲町 地内	調査区域内に4カ所、のべ 40m ² の試掘坑を設定	4カ所の試掘地点とも城下町期 (15～17C)の遺構、遺物を確認。
清洲城下町遺跡 (五条川河川改修)	西春日井郡清洲町 地内	調査区域内に8カ所、のべ 690m ² の試掘坑を設定	8カ所の試掘地点とも城下町期 の遺構、遺物を確認。 「調査の概要」参照